

I. 園の教育目標

教育基本法及び学校教育法にしたがい、学校教育を行い、よき伝統の上に「未来に生きる夢を持った心身ともに調和の取れた子ども」を育成する。また、子ども達が将来自分の持てる能力を十分発揮して社会に貢献できる人間の素地の育成を目指し、次の四つを掲げる。

- (1) 人間として大切な豊かな心の素地を養う。
- (2) 健康かつ安全で人間らしい生活を送るための基本的生活習慣・態度を育て、健全な心身の基礎を養う。
- (3) 科学的夢を育て、自然の事物現象に旺盛に反応する感性を育てる。
- (4) 広い心を持ち、国際的に開かれた心情の素地を育てる。

II. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

子どもの実態に沿って指導計画の見直しを行う。教育保育の質の向上と安全管理や安全教育なども図る。また、本園の特色である科学あそびを更に充実させていくことを重点項目とする。

III. 評価項目の達成及び取り組み

	評価項目	評価	取り組み
1	小学校と連携し、発達の連続性を踏まえてスムーズな接続を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園と桜小学校 1 年部の教師が相互の研究会に参加し参観と協議を行い、教育のねらいや内容の違いまたは共通点について対面で話し合う機会を設け、理解を深めた。 ・就学先の小学校と連絡会を行う。個々について詳しく伝えることで、育ちの継続が図れるよう努めた。
2	保護者および地域の方の要望や相談等に適切に対応をする。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがのびのびと園生活を送れるよう、保護者および地域の方々の要望や相談等に丁寧に対応した。 ・子どもの成長や発達について確認したり相談したりできるよう、キッズステップノートを活用した。 ・保護者アンケートを実施し、結果を公表した。
3	保護者に幼稚園と保育園及びリトル園の情報や、子どもの姿等を伝える。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・園の教育方針や取り組みをホームページ、保護者懇談会、園便り、学年便り等を通して情報発信した。 ・園での生活が伝わりやすいよう、配布物の内容を見直し工夫する。また、園内の掲示物についても見直す。 ・各クラスで保育ドキュメンテーションを掲示し、子どもの姿を定期的に紹介した。教育保育の視点や育ちについて保護者に可視化し、理解を図りながら安心感と信頼感に繋げた。

S：十分に成果があった A：成果があった B：少し成果があった C：成果がなかった

IV. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

評 価	理 由
A	各自、評価項目に基づき自己評価に取り組むことができた。今後も、資の向上のため教育保育を振り返り、園全体で取り組むべき課題を認識して改善していくように努力する。

V. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教育課程・指導計画	<ul style="list-style-type: none"> ・常に教育保育の資の向上を図る必要があること、乳幼児の学びは環境（人的、物的、社会的、自然）との出会いから生まれることから、育ちに必要な経験を重ねていくことができるよう、保育内容を見直し検討する。 ・発達の特徴を踏まえ、あそびを通して個の成長と集団としての活動の充実を図る。
小学校とのつながりを深める	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期のあそび(学び)を小学校以降の生活や学習に繋げていくことができるように、心と体が動く豊かな実体験に繋がるための環境の構成や援助を見直す。 ・小学校と連携・協働し、架け橋期のカリキュラム『架け橋プログラム』を作成する。

VI. 学校関係者評価委員会の評価

評 価	理 由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・すべてにおいて多様性の時代になりましたが、細やかに配慮しながら教育保育に努めている様子が伝わります。より良い教育保育や環境改善に向けて、試行錯誤しているところは頑張りが感じられました。 ・今年は熊問題で戸外活動が減ったことは残念でしたが、今後も子どもたちに多くの成長の機会を与えて欲しいと思います。